

地域クラブチーム

2023. 7. 25

今年度から、中体連、中学校体育連盟に登録したスポーツ団体（地域クラブ）が、中体連の大会に出場できることになった。ただし、今年度は、すべての競技というわけではない。また、団体は県大会に1チームのみ、個人は地区大会からの参加となる。

福島県の登録状況を見てみると、陸上競技2、水泳10、ソフトボール1、柔道4、剣道1、ソフトテニス5、バドミントン5、新体操1となっている。登録したからといって、大会に出るといわけではない。例えば、ソフトテニスは、5団体登録したが、実際に大会に出るのは、1団体のみである。ということは、この1団体が、県大会に出場できる1チームとなる。

今のところの話であるが、選手である生徒の側に立って、このシステムのメリットを考えてみた。小学校から、その競技を続けている中学1年生がいるとする。技術的に、2・3年生よりも優れており、試合をやっても1年生が勝つとする。では、この1年生が、学校の部活動から選手として中体連の大会に出ることができるだろうか。その顧問によるが、1年生を出せば勝つとわかっていても、2・3年生を優先させて、1年生を出さないという考えもある。この場合、この1年生は、クラブチームから出た方がよい。少なくとも大会に出て試合ができる。

また、柔道などで学校に常設の柔道部がなく、特設柔道部として、個人戦のみに出場していた選手がいるとする。今年度からは、普段練習しているクラブチームから出場すれば、団体戦にも出場できる。柔道は4団体が登録しているので、県大会に出場できる1チームになれるかはわからないが、その1チームを決める試合には出場できる。これは、水泳にも当てはまる。水泳の場合は、団体戦ではなくリレーではあるが。

今年度は、慌ただしく見切り発車的なところがあった。そのため、登録団体が少なかったのかもしれない。また、ソフトテニスのように、とりあえず登録しておいて、その後、出場を見送った登録団体もある。

東北各県の状況はどうなのか。ソフトテニスは、青森県1、岩手県1、宮城県0、秋田県2、山形県1である。意外と少ない。どの県も、福島県に負けず劣らず、ジュニア、小学生のクラブチームは盛んである。

他の競技も見てみた。全競技で青森県52、岩手県21、宮城県20、秋田県13、山形県21、福島県29である。青森県が突出している。次年度以降は、また状況が変わってくるだろう。こういった改革は、大人が考えている。大事なことは、選手である生徒にとってどうなのか、なぜこのような改革を進めることになったのかという視点を忘れないことである。

昨日まで、福島県中学校体育大会が行われた。いくつかの競技では、地域クラブチームから出場した選手がいたことだろう。それでも、その中学校にとっては、大事な生徒であることには変わりはない。